

女性のひろば

おかやま女性情報誌

第7号

1994.9.



●座談会 - 家族ってなあに

●男女共同参画型社会をめざす女性問題実践文・優秀作品発表

座談会

国際家族年によせて考えてみました 家族ってなあに

家事分担

司会 今年は国際家族年ということで、家族の在り方が問いなおされています。そこで皆さんと「家族」について話し合いをしていきたいと思います。

秋元 私は一緒に暮らす2人（夫婦）が意識して会話しなくてダメかなと思うんです。黙っていたら伝わらないですよ。我が家でも互いに相談し、家事はどちらか早く帰って来た方か、手のあいた方がするようになってきました。まだこういう家庭は少ないでしょうが、子ども達が大きくなる頃には、そういう家庭が普通だと思えるようになったらと思います。

横田 夫は仕事が忙しくて、家庭のことなど顧みる余裕のない時期がありました。今は会社人間では人生面白くないと思っているようで、趣味にも子どもにも目配りするようになりました。私は女性が、妻だから母だからとがんばりすぎないで、もっといろんな事を家族みんなで分かち合い、分担し合う方がいいと思うのです。わが家でもぎざしているのは各々の自立です。



横田悦子（塾教師）
家族 夫・子ども
（高2・中3・中1・小4）

方がわからないと言っていました。それが4人目にしてようやくわかってきたようです。私は「子育ての楽しさを味わって」といって、末の子は夫に任せています。ソフトボールや柔道に付き添い、魚つりやマラソンにも二人で出かけて行って、とても仲がいいんです。だから親子の関係も時間をかけて付き合わない駄目なんですよ。

滝谷 私は3年ほど前、東京に単身赴任をした時には、子ども3人と妻あてに180通の手紙を書きました。今はそれがいい思い出です。だから戻ってきたときにもスムーズに家族を営めたんだと思います。子どもたちを見ていて、問題があるなと思った時には、その子を食事に誘って話をしたりもします。



滝谷正明（会社員）
家族 妻・子ども
（中2・小4・小2）



秋元 男性の長時間労働や望まない単身赴任などで家族にしわ寄せがきたとき、家族の努力だけで解決するのは無理だと思います。だから仕事をしながら家族とふれあえる、地域にもとけこめるというよ

国際家族年とは
核家族化の進展など世界的な家族構造・機能の変化などを背景に1994年が「国際家族年」として国連総会で決議されました。社会の基礎単位である家族を保護・支援するとともに、家族の多様性を認め、個人の基本的な人権を尊重していくなどの原則が盛り込まれています。

うな方向に社会全体が変わってほしいと思います。

横田 家族の問題の中に個人的に解決できる問題と、個人だけでは解決できない問題っていろいろありますね。

滝谷 これからの世の中というのは、決められた就業時間の中でいかに仕事をこなして、あとはいかに地域社会に貢献するかではないでしょうか。一回しかない人生なんだから、余暇の時間にいかに多くの人と話をすることが大切だと思います。

いろいろな家族

司会 それでは、私たちにとって「家族」とは…？

滝谷 私、個人としては心が安らぐ場所かなと思います。会社でいろんなことがあっても、家に帰って元気な子どもたちの姿を見たり妻と接すると、いやでも会社に行こうという元気が出ます。家族っていいもんですよ。



岡山市在住の3人の方に話し合いをしていただきました。

横田 学生の頃、一人暮らしのアパートで、やることなすこと思うように

いかず自身喪失してしまったのです。そのとき母が手紙で「私はあなたを信じている。世界中の人があなたをきらいになっても私はあなたが好きだ」と書いてきてくれてすごく嬉しかったんです。いざという時、無条件に自分を受け入れてくれる人が家族といえるかなと思います。

秋元 子どものいる家族は、子どもを自立させて社会に送り出す役目があると思うんです。だから血縁であってもなくても、全ての子ども達が家族から受け入れられ安心して、自信を持ってもらいたいと思いますね。

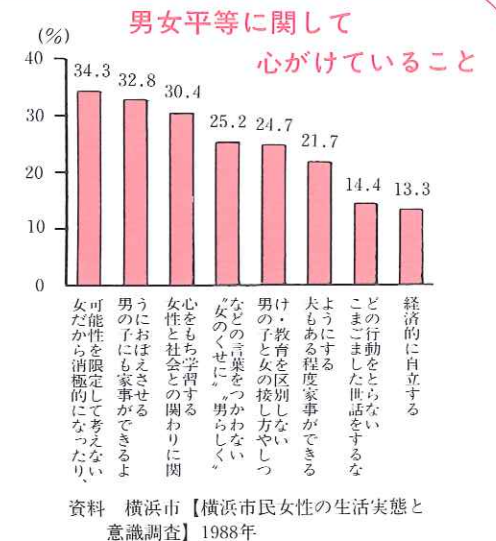
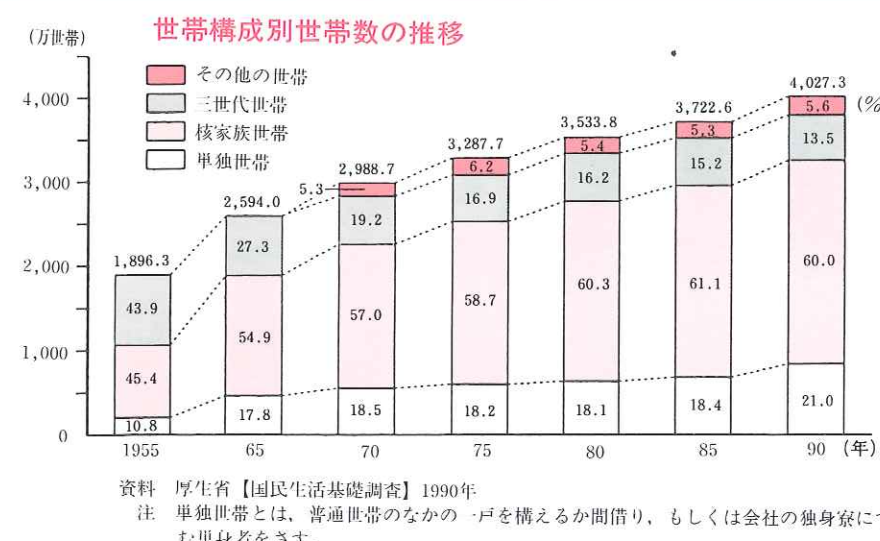
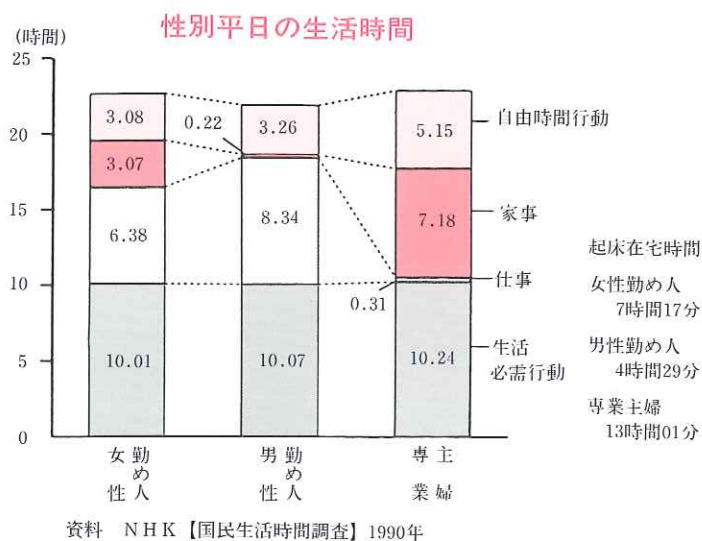


秋元邦江（会社員）
家族 夫・子ども
（小4）

横田 血がつながっていないけれども、家族といえますよね。

秋元 将来的には、母子家庭や父子家庭、あるいは、他人の子を育てている人、または血縁のない人同士が共同生活する“家族”とか、いろいろなパターンの家族がおかしいと言われられないような世の中になってほしいと思います。

司会 ありがとうございます。将来的な家族の在り方も少し見えてきたのではないかと思います。これを機会に一人ひとりが家族について真剣に考えていただけたらとの願いをこめ、座談会を終わらせていただきます。



「図表でみる女の現在」1994年2月発行より

インタビュー

平成5年4月に、「女性政策課」誕生

◆岡山市総務局生活文化部女性政策課 塩見 槇子 課長にQ&A

Q 「女性政策課」誕生の経過について…

A 昭和50年の「国際婦人年」、それに続く国連婦人の十年の流れの中で、岡山市では昭和57年岡山市新総合計画に「婦人の地位と福祉の向上」を掲げ、民生局婦人児童課に窓口を設けました。その後、昭和63年に係を、また平成6年4月には女性に関する施策を推進していく専門の窓口として女性政策課ができました。



Q 女性政策課の取り組みについて…

A 平成2年、西暦2000年に向けて「男女共同社会をめざす岡山市行動計画」を策定し、現在、この計画テーマ「人間尊重、自立、連帯、ふれあい」に沿って男女共同参画型の新しい時代を実現するため、女性大学、おかやま女性フェスティバル等の事業を実施しています。
また、男女共同社会推進センター（仮称）について、平成5年7月設置検討委員会を設け、現在、調査、研究をしています。

Q 男女共同参画型社会実現のための方策は？

A 今日の女性の社会進出には目ざましいものがありますが、長い間、政策や方策決定は男性の役割とされてきたため、慣習、意識、制度などに女性の参画を阻むものがみられます。これらの見直しを図り、女性の感覚、視点が意志決定の場に生かされるよう、各種審議会委員への登用を積極的に進めることが必要です。
また、言うまでもなく社会は、男性と女性の両性によって支えられていますので社会の各分野において男女が共同して責任を担い、それぞれの能力を発揮しバランスのとれた人生を送ることが出来るよう雇用、福祉、教育など幅広い政策が必要です。

女性のひろば 新編集委員の紹介

女性政策課のスタッフと、従来から編集に携わってきた織田・花山編集委員に新編集委員が加わり仲間が増えました。

世の中どんどん豊かに便利になりましたが、私のまわりではまだまだ男女の格差も昔からの習慣も生きづき人々の意識にあまり変化は見られません。私自身も日々の生活に流されるままにそれが当たり前のように暮らしてきました。まずこれを機に私の中から意識を変えていく必要があるようです。間近に迫った21世紀が魅力ある平和な時代になるようにまずは私からそして家族へ社会へと男女共生の和を広げていきたいのです。

岡本ふみい(豊田)



女性問題というと難しそうですが、女子大生の就職難、女性の家事・育児労働の負担など日常の様々なところに女性問題は潜んでいます。まずは自分の周りの些細な女性問題に気付くことが大切だと思います。この「女性のひろば」を一人でも多くの方に読んでいただいて、気付いていない方に気付いてもらえたら、そんな思いを抱いて今回編集委員に参加させていただくことになりました。誰にでもわかりやすい情報誌を目指してがんばりたいと思います。

山田良子(築港新町)

「ダメもと」の軽い気分で応募したら、おこがましくも「女性のひろば」の編集委員になってしまいました。1歳の息子を母にあずけ、いそいそと出かける編集会議の日は、子ども抜きの自分に戻れる数少ないチャンス。議論百出の末、テーマを絞り、担当を決め、原稿を書き…久しぶりの充実感です。が、初めての経験なので、思い出せば赤面ものの発言も多々(委員の皆さんゴメンナサイ)この誌面を男女共生社会の実現に役立てたいという意欲だけはあるけれど、どうなることやら。でもとにかくガンバリマス。

大黒 文(今村)

私の家族は、夫と男の子二人の四人家族で当然のように、家事は女である私の仕事と決まっていた。ところが、この四月から高一の長男は

「男女共修の家庭科」を学び、小六の二男は、学校で野菜サラダやみそ汁を作った話をし、我家で実践してくれています。「私達の時代とは変わったのね。」と夫と話しています。「女性のひろば」の編集をお手伝いしながら、まずは身近な女性問題について、自分自身が学んでいきたいと思っています。

宮本路子(関)

おかやま女性フェスティバル



ともに築く21世紀 ~行動の輪をひろげよう~

'94/11月3日(文化の日)

岡山シンフォニーホール

オープニング 12:30~13:00

基調講演 13:00~14:30

「ともに生きる未来へ」樋口恵子

シンポジウム 14:40~16:40

「家族再考~生き生き人生へのヒント~」

樋口恵子・桜井陽子・橋 由子・増田雅暢

'94/11月6日(日)岡山ふれあいセンター

人形劇 10:45~12:00

講演 13:00~15:30

「女性と健康」池上千寿子

「エイズメモリアルキルト」寺口 淳子

■パネル展示 実行委員会参加団体の活動紹介

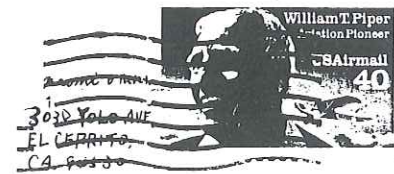
託児

◆11月3日 12:45~16:50

◆11月6日 12:45~15:40

2歳以上の幼児・要予約

ふりーとーく



BY AIR MAIL
PAR AVION

私が見たアメリカの家庭事情

私は、アメリカに来て、約3ヵ月、日本の生活ともあまり変わりなく、元気に暮らしております。こちらは、生活のため、ほとんどの女性が働き、その80%はパートで条件も悪く、しかも男女の賃金の差は大きいようです。家庭生活も女性が家事の中心です。ただ、機械を使っただけの家事が多いため、比較的楽で、男性も手伝い易いといった感じです。一番感心したことは、常に子どもに手伝わせているところです。食事の後片付け、洗濯など何でも子どもが手伝っています。家に招待した時、その家族の17才になる男の子が、私の家の台所に入って、どんどん片付け始めた時には驚きました。両親とも「いつもの事だから、させておけば良い」と言っていました。家事分担を実現したいのなら、子どもの教育からと感じています。

大谷 直美(ロス在住の前編集委員)

今回は、前編集委員から
のエアメールを載せました
が、皆さんもどうぞお便
りください。

女性問題

実践文

優秀賞

女性問題に理解を深めてもらうため、地域や職場・家庭などで、日頃皆さんが実践している内容の発表文を募集しましたところ、市民の皆さんから28点のご応募がありました。その中から、優秀賞3点をご紹介します。誌面の都合でこの号で2点、次号で1点をご紹介します。

「おそい、めざめ」

江口 枝津子 (51歳・吉備津)

「おはようございます」今朝もこの挨拶から職場の一日が始まります。独特の緊張感と共に、「今日も頑張るぞ」と、私はこの朝のスタートは、とても好きなひとときなのです。

いつものように、掃除をしながら体を動かしているうちに、仕事場の雰囲気に馴染み、緊張感が、リラックスしてきます。男の人は一服のタバコ、一杯のコーヒーからこの朝のひとときを好んでいるのではないかと考えております。ある朝、それぞれの机の上の灰皿がきれいに洗ってあるのに気が付きました。「ああ、誰かきれいに洗ってくれてる。助かるな」と思いました。二日目、三日目もつづきました。「こんなに毎日、灰皿の掃除をしてくれる人は誰なんじゃろう」と尋ねてみると、営業のTさんが、一日の仕事が終わった後で、十個もある灰皿を洗ってくれてることがわかりました。この善行者がわかればわかったで、なぜ、こんな親切ができるようになったか知りたくなりました。「いつも灰皿洗ってくれてありがとう！助かっているわ。でもどうしてですか」と言ってみました。Tさんいわく、「俺、あるセミナーに行ったんよ。そこでいろんな話を聞いて開眼したかも知れん。男は、家庭でも職場でも仕事さえしていれば誰にも文句は言われん。立派なことじゃあと、世間も俺も思っていた。明治以来、平成の現代まで、この意識は変わっていない。ところが、時代は変わる。女性は良い意味で素晴らしい飛躍をしている。男の“仕事だけ”の人生でなく、女性と共同しながら男も生きていかなくてはと残り残されてしまうと、思ったんよ」「その第一歩が灰皿掃除なんじゃ」と、彼は、とても明るく、素直な気持ちを教えてくれました。私は、素晴らしいことと思いました。男も女も意識改革が必要だということを実感しました。「男の仕事」「女の仕事」、この区別はないと思っています。お互いが何をしてあげるか。「実践」この事が大切なのではと思っています。彼の心の中は、男女共同社会、共に生きる意識が確実に芽生えています。「おそい、めざめ」と言っただけで失礼と思いつつ、男も女も素晴らしい人生をめざすことが出来ればと思っています。彼の灰皿掃除は今日も続いています。「Tさん、ありがとう」



「雛の声が聞こえる」

内藤 由子 (58才・大安寺東町)

1歳半になる孫の有香が足を踏ん張って、大きなすいかを持ち上げている。その一生懸命の姿が愛らしくて、私はこの写真が大好きだ。夫は「大きくなったら恥ずかしがるぞ、かわいそうに」と気づかう。二十年たっても「力持ち」のレッテルは若い娘に不似合いの社会だろうか。私は、昭和三十年代に結婚し、以後夫や義父母と暮らしながら子どもを育てた。不自由なことが多かった。娘の将来を決める昭和五十年代は、私自身経済的自立の放棄を深く悔やんでいた時であった。そこで女性が認める職業を選ぶよう助言した。その条件に合う仕事は大変すくなかった。しかし私の失敗を無にしないようにと私も協力した。今、娘は有香を育てながら歯科医を続けている。この選択は今の不平等社会と対決を避けたものであった。経済的自立は必要であるが女性として生きやすい道から選択するという生き方であった。現在の私は、レクリエーションを通して社会に参加していきたいと思っている。この世界は日常生活を基盤とするだけに家庭婦人が入りやすく、得意とする分野である。肩書きより個性が光る社会である。ただ社会的経済的に認められると男性が組織化し、女性が疎外される傾向は変わらない。参加者の95%が女性であるフォークダンス協会でも女性会長は聞

いたことがない。福祉ボランティアの分野では女性リーダーが生まれ、組織の成長とともにリーダーも成長していく姿に出会う。今は経済優先の社会だが将来は健康や文化を重要視する社会が来る。その時に、これらのリーダーはしっかり残っていてほしい。女性グループのリーダーは女性だが、男女混合グループのリーダーは男性になるのが現実であるから。

私は、毎週体操教室で多くの女性と会う。自主性を持ち、日常生活、経済生活、ボランティアのバランスよく暮らす女性が増えた。しかし、平等参画社会に何をしているか？と問われたらはっきりした成果のあがった実践例を知らない。現在、家庭婦人の参加できる社会は、女性ばかりの世界が多い。平等参画といっても接する男性は夫と子どもである。主婦が自由に考え行動できる社会にするには子育て、夫育てが第一歩である。私も、ほめる、たよりにする、感謝するという「ほたか(穂高)」手段で日常生活自立をめざした。今まで、私の白髪染めの助手は息子であったが、巣立った後は夫が手伝ってくれる。新婚当初は想像もしなかった生活だが、夫は何でもこなす自立人になったとしみじみ思う。この協力心のおかげで私も学校や公民館に出かけられる。「啜啄同時」という言葉があるが、今は雛が卵の中で鳴いている状態である。親鳥が外からつつけば新しい時代が開ける。男女別姓も具体化の動きをみせている。私も自分のたちばで積極的に殻を破る努力をしよう。二十年後は有香の「力持ち」の証写真が彼女に自信と挑戦の勇気を与えるよすがとなる、のびのびした社会を造りたい。



次号に掲載する 優秀賞の作品は、片山晴雄 (64歳・学南町)さんの「地域での男女共同参画型の小さな取り組み」です。

第5回 女性問題全国都市会議 報告

7月7日、8日相模原市において、68市の女性行政担当者及び関係者が一堂に会し、「自分らしく、ともに家族、ともに社会～男女共同参画型社会を創るために～」をテーマに、女性行政を進展させるための課題について、熱心な話し合いが行われました。その時採択されたのが、「さがみはらアピール'94」です。

1. 私たちは、半数を占める女性の能力や経験を社会にいかすよう、広く人材の養成に努め政策形成の場である各種審議会等、あらゆる分野への女性の参画を積極的に推進します。

1. 私たちは、ともに新しい生き方について学び、その実践と自立を支援する総合拠点づくりや、都市間における人と情報のネットワークづくりを進めます。

1. 私たちは、一人ひとりが自分らしく生きる社会を創造するため女性も男性もともに、固定的な性別役割分担意識をなくすよう、その啓発に努めます。

1. 私たちは、1995年、北京において開催される第4回世界婦人会議を始め、さまざまな国際交流や協力をとおして、世界平和の一翼を担っていくよう友好の輪を広げます。

1. 私たちは、職業と家庭の調和ある暮らしを実現するため、女性は社会に、男性は積極的に家庭・地域とともに参画し、ともに責任を分担できるよう、社会的条件整備に取組みます。

1. 私たちは、国内本部機構の改組・拡充とともに、法令に根拠を持つ男女共同参画室と男女共同参画審議会の発足を歓迎し、国・地方公共団体における連携と協力がより緊密なものとなるよう働きかけます。

1. 私たちは、長い生涯をいきいきと暮らすことができる社会の実現に向けて、女性も男性もともに自立し、さまざまな福祉活動を進め、福祉サービスの向上が図られるよう努めます。

さがみはら
アピール
'94

ご存知ですか? 『夫婦別姓について』

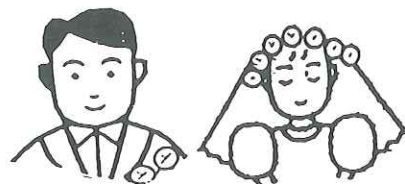
女性の社会進出に伴い関心の高い選択的な夫婦別姓について試案は導入を明示している。しかし夫婦同姓・別姓のいずれを原則とするかの方法、夫婦間の子の姓の取り扱いについては、絞り切れずに三通りの案を併記し、今後も引き続き検討するとしている。

—試案は3タイプ—

- A型**—原則同姓。
別姓でもよい。結婚後は別姓から同姓への変更は認める。
- B型**—原則別姓。
同姓でもよい。
結婚後は変更（同姓又は別姓に）することを認めない。
- C型**—原則同姓。届け出により旧姓を「呼称」とすることを認める。

—子の姓は?—

- A型**—別姓の場合、結婚時にいずれかの姓に定める。
- B型**—別姓の場合、子の姓は出生の都度、父母が協議して決める。



岡山市母子クラブ研究協議会(母研協)

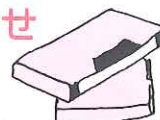
子供といっしょになって遊び、また学びあえる仲間作りを求めて、地域の中でめばえた母子クラブ。そして、より良い子育てをめざして広がったネットワークが母研協です。

市内84地区の母子クラブが一つにまとまり「親と子の生活を見直そう」というテーマをもとに、交流会・子育て教室等いろんな事業に取り組みながら、健康な子供たちを育てるために、どうすればいいのかわ、皆で悩み、考え、話し合える場となっています。

会長 大賀 佳子



新着ビデオのお知らせ



★男性管理職入門講座 ～彼女の瞳が輝くように～

女性社員を直接指導する立場にある中間管理職のあり方について考えたもの。
(25分)

★女性社員の能力を生かすII

「女性の能力をどう生かしていくか」が、企業の発展の鍵になることを提起したもの。
(23分)

★偏見の構図

～いわれなきレッテル～

職業・学歴・貧富・性差などに対するゆがんだ価値観～人権感覚を研くための問題提起の作品。
(30分)

ビデオは少人数の集まりでも貸し出します。お問い合わせは女性政策課へ。

編集後記

今回は、「家族」について考えてみました。今、私たちをとり巻く人間関係は、自分達が考える以上に大きな変革期に来ているようです……。ご意見ならびに、情報等、寄稿いただければと思います。

予告

次号では「男女の自立」をテーマに取り上げる予定です。テーマについてのご意見をお待ちしています。

10月からごみ袋透明化!

～ルールを守り街をきれいに～ 岡山市

発行/岡山市総務局生活文化部女性政策課
岡山市大供一丁目1番1号
☎(086)225-4211 内線3242
表紙制作/板野淑子

本誌ご希望の方は女性政策課へ